

[研究区分： 地域課題解決研究]

研究テーマ： 参加型の新しい開発教育教材の普及と開発 ～広島地域課題に根ざした ESD の取組～	
研究代表者： 人間文化学部 国際文化学科 教授・富田和広	連絡先： tomita@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者： 県立広島大学 准教授・植村広美， 広島経済大学 准教授・榎本伸悦， 安田女子大学 講師・西川京子， 広島県立広島中央特別支援学校 教諭・中須賀裕幸， 広島市立翠町中学校 主幹教諭・岡田祐一， 広島市立白島小学校 教諭・有森歩， しちずん・プロジェクト&ワークス 代表・佐々木宏知， Bridging Peace 服部淳子	
【研究概要】 (研究の背景) 広島県『国際平和拠点ひろしま構想』の3つのアジェンダおよび平和な世界を築くための教材開発の重要性の指摘と、新学習指導要領にESDという項目が加わったことが背景にある。 (目的) 広島地域課題に根ざした ESD の取組の一つとして、広島県が国際平和の拠点になることに寄与すべく参加型のオリジナル多文化共生教材を開発する。 (成果) 平成25年度(2年計画の1年目)は、先行研究の分析、関係者への聞き取り、教材の試作をおこなった。その成果の一部を報告書『広島の開発教育・ESD』としてまとめた。	

【研究内容・成果】

● 研究結果の要約

本研究は、2年計画の一年目である。平成25年度は、多文化共生教材作成のために、先行研究の分析、関係者への聞き取りをおこなった。

多文化共生教育の先行研究について分析したところ、地域社会との関連、日本語教育、国際結婚、難民、障害者、研修生、海外の日本人駐在家族など多様なアジェンダがあることが分かった。しかし、異文化コミュニケーション教育の分野では、いくつかの手法が開発されているものの、スキルや効果的なコミュニケーションについて統合的に書かれた文献はなく、大学でも文化的違いを均一的・一元的・静態的に捉え、ステレオタイプの認識が拡大再生産されるような教育がなされていることが指摘されており、異文化間教育でも「異文化適応のための教育」という問題点があり、偏見低減がテーマ化され、多文化社会における多様性の尊重について検討されていることが分かった。また、広島に特化した教材はみつけることができなかった。そこで、アイヌをテーマにした教材の作成者や広島の夜間中学の教員への聞き取り調査を実施すると同時に、関連学会の研究大会やESD関連ワークショップに参加し、広島の多文化状況およびESD教材に関する情報の収集を行った。結果の詳細な分析は来年度を予定しているが、今年度の成果の一部を報告書『広島の開発教育・ESD』としてまとめた。

● 背景

広島県は、平成23年10月にまとめられた『国際平和拠点ひろしま構想』の第2部「行動の提案」2-2「平和な国際社会構築のための人材育成」において、「核兵器のない平和な世界を築き紛争後の復興を達成するには、国際社会が政治家と市民を育て、動員することが不可欠である。教育は、今日実務にあたっている人と将来の世代にとって非常に重要である。私たちは、ふさわしい人材の育成をはじめとして、教材の開発や現場研修などに取り組んでいく必要があり、そのために考える行動として、市民社会との連携をあげ、この活動を実行するにあたって重要である」と述べている。

一方で、新学習指導要領に「持続可能な開発のための教育」(ESD)という項目が加わり、持続可能な開発のための平和構築というのが観点と位置づけられるようになった。

本研究では、『国際平和拠点ひろしま構想』の3つのアジェンダである「二国間主義を越えて」「地域紛争」「平和構築の取組」に関する人材育成のベースと考えられる多文化共生における対立管理というテーマについて、「将来の世代」への教育としての学校教育での取組を行うものである。

● 特色・独創的な点

多文化共生教育を、持続可能な社会の基礎となる平和構築のための人材育成と位置づけ、参加型学習という教育方法を取り入れるのは独創的であり、広島という地域特性を生かした教材作成という点が特色である。

● 意義

初等教育から高等教育、社会教育まで、現場にあわせた使いやすいタイプの教材のありかたについて明らかになることは、広島県の平和教育の推進、「ひろしま未来チャレンジビジョン」でうたわれている「平和のための人材育成への取組み」に寄与し、成果を世界に向けて発信することで広島県の国際平和の拠点化に貢献するという意義をもつ。

● 実施状況の概要

1. 先行研究、関連資料については、33冊の書籍を購入し、広島で開発教育に携わっている関係者には原稿を依頼し、内容をまとめたものを一部報告書に掲載した。
2. 以下の関連学会やワークショップ等に参加した。
広島県ユニセフ・ラオス・スタディツアー報告会(4/20)、TICADV学生プロジェクト中国地方事務局主催アフリカン・フェスタ(6/2)、日本国際理解教育学会第23回研究大会(7/6-7)、広島ESD・ユニセフスクール研究会(9/21)、広島県ユニセフ講座「難民ワークショップ」(10/12)、広島県ユニセフ講座「貿易ゲームで世界を知ろう」(2/15)、ESDグッドプラクティス「平和都市広島から考える持続可能な開発のための教育～事例から学びあうワークショップ～」(12/14)、ひろしま国際センター「HIROSHIMAS」(1/12)、ひろしま国際センター「グローバル人財養成講座」(3/8)
3. 教材案(試作)を2本作成し報告書に掲載した。
4. 研究会については、4回実施した。(5/3 12/22 2/22 3/29)
5. ワークショップについては次の通り3回実施した。
 - ESDワークショップ「先住民族と多文化・多民族共生」(10/19)
 - 多文化共生学習会「夜間学級の実態から学ぶ」(12/22、3/29)
6. 研究アドバイザーからの専門的意見の聴取はワークショップ及び学習会講師三名から行った。

